

森の通信

宮崎県総合博物館
発行日/平成12年10月1日

発行/宮崎県総合博物館 TEL(0985)24-2071
<http://www.pref.miyazaki.jp/museum/>

新特別展 発掘された日本列島 発見考古速報展

2000



入館料=大人/500円(400) 高校・大学生/300円(200)
小・中学生/200円(100) ()は20名以上の団体

関連講座

- 11/19日講演「スライドでみる東九州縦貫自動車遺跡群の成果」
- 11/23木体験教室「石器をつくろう」
- 11/26日講演「呪いの赤一赤色顔料とはなにか?」
- 12/3日体験教室「拓本をとろう」



奈良県酒船石遺跡



群馬県道訓前遺跡



奈良県池田遺跡

2000年
11.11(土)



12.6(水)

私たちの周辺では、さまざまな開発や学術調査とともに遺跡の発掘調査が日々行われています。その数は、全国で毎年約1万件ちかくにも達し、これらの発掘の成果によって日々歴史が書き換えられているといつても過言ではありません。この展覧会では、最新の発掘成果から全国38遺跡、約700点の資料を厳選し全国7会場で展示紹介するものです。約30万年前の旧石器、北関東の大集落から出土した華麗な縄文土器、銅鐸の起源を再考させる小銅鐸、齊明天皇との関連を窺わせる亀形石造物(模型)など新聞紙上を賑わせた重要な発掘品が目白押しです。また、全国最古級の玦状耳飾など宮崎県内の注目すべき資料約100点についても同時に紹介します。

博物館利用者の声

宮崎県立大宮高等学校 1年生 大野 布美子



新しくなった博物館に来たのは、今回が初めてでした。中を見学させていただいと宮崎についての資料の多さに驚くとともに、宮崎について学ぶにはとても良いところだと思いました。展示を見ることにより、宮崎について今まで知らなかったことを知ることができ、とてもうれしく感じました。自分の中に新しい宮崎がまた生まれてきたような気がします。映像などで宮崎の歴史を振り返っているのも、その時代に入りやすく、その時代のことがとても分かりやすく、宮崎のこれまでの歴史を実感することができました。いい勉強になりました。

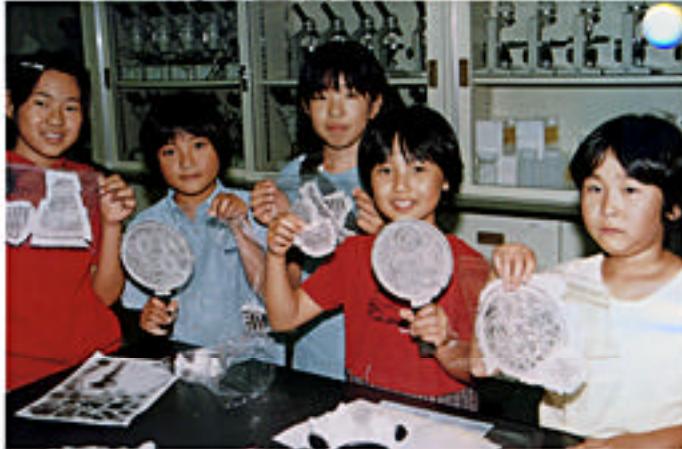
博物館講座紹介

じょうずにできました！

考古資料の拓本を体験する講座をおこないました。タンボ作りから墨打ちまでを小学校低学年から大人までわきあいあい、助け合いながら3時間あまり、初めてとはおもえないりっぱな作品が完成しました。縄文土器、弥生土器、須恵器、柄鏡など実際に触れるながらの作業はちょっと緊張したようです。夏休みの自由研究になったかな？中国六朝時代に生まれた拓本技術は、日本では江戸時代に伝えられ盛んになりました。現在でも、写真では表現できない微妙な模様を伝える手段として考古学の分野ではなくてはならない技法です。



初めての体験、拓本（たくほん）教室



特別企画展「水辺の花と生きものたち」ボランティアに参加して

「水辺の花」展 裏方を体験

宮崎県立海洋高等学校 3年生 宮尾 恵子

「うわっ！ 気持ち悪い」「こんイソギンチャクは、てげ、気持ちいいよ」と手に取ってはしゃぐ来館者の声を聞きながら、県総合博物館の特別展「水辺の花と生きものたち」にボランティアで参加させていただきました。

私が担当したタッチプールでは、来館者に実際に生き物に触れてもらいながら名前や生態を説明するというものでした。この過程で私自身、学ぶことがたくさんあり、今まで知らなかつたウニやナマコたちの生態も知ることができました。また、裏方での水替え作業では指定された濃度に薄めた海水をバケツ何杯分も用意せねばならず、とても大変でした。しかし、どちらも貴重な体験になりました。

私が通っている海洋高校では一学期にふ化したばかりのマダイを育てています。今、5センチほどの稚魚に成長しています。早く大きく育てて、自由に泳げる大海原に返してやりたいと思っています。

今回の体験はどんなに小さな動植物にも命があり、生きていること、また、私たちはそれを守っていく責任があるということを知る良い機会となりました。



展示解説員の声

「ねえ来て！ 来て！」 「これなーに？」 「わあすごい！」 夏休みの期間中博物館は子ども達の元気な声でいっぱいでした。ご家族で来館される方が多く、お父さんが子どもたちに説明をしていらっしゃる姿があちこちでみられました。きっと子どもたちは、「お父さんてすごい」と思ったことでしょう。私たち解説員も子どもたちから質問を受けることが多かったのですが、その質問の素直さと鋭さに、はっとさせられることがたくさんありました。日頃私たちが常識として何気なく使っている言葉や専門用語、それらをわかり易く解説することの大切さと難しさを子どもたちが教えてくれました。

(高野 明子)



西都原資料館よい

さる7月29日(土)に、西都原古墳群内において、資料館講座「夏休み古墳探検！」が行なわれました。集まった32名の小中学生に、保護者・幼児を加えた総勢60余名の大探検隊は、クイズを一問一問解きながら、未知の古墳を探検していました。夏休みの課題研究として参加した子ども達は、初めて見る石室の内部を写真におさめたり、横穴墓の人骨(レプリカ)に驚いたりと手応え十分のようでした。



【コーナー展】

「石野田臼太鼓踊展」

平成13年2月6日(火)～3月18日(日)
西都市大字下三財石野田地区に伝わる臼太鼓踊を、踊りにこめられた願いとともに展示紹介します。



西都原古代生活体験館よい

受講生募集

普及講座『アンギンで作る小物入れ』

11月4日、18日・12月2日、16(土)全4回

午後1時30分から4時30分まで

参加費1,000円

中学生以上～大人(小学生は、いつでもできる2時間コースへ参加してください。)

はじめに、縄文人も使っていたと思われる機織り機を作ります。基本的には四角い布を織つていき、はぎ合わせて形をつくります。



着てみませんか？ 古代衣装

西都原古墳群の中で古代衣装を着て古代に想いをはせてください。館内での試着ができます。(無料)



【問い合わせ先：西都原古代生活体験館 0983-43-5002】

常設展示室探検～民俗展示室の人気スポット

山の別宅「作小屋」

作小屋は、かつて焼畑を行っていた西米良村で、焼畑に適した山の中腹に近いところに建てられた、住まいと作業場を兼ねた別宅で、展示室の中復元したものです。

入口には表と笠がかけられ、中に入ると土間があり、料理を作っていた竈が視界に入れます。周囲には石臼・手桶・米櫃など置かれています。畳の部屋に上がると目に入るが、軒先にさがる干し柿です。取って食べてしまいたくなるほど本物に似たレプリカです。囲炉裏では、自在鉤に鉄鍋がさげられています。焼けた木炭の上には鉄瓶が置いてあり、手をかざすと身体と心が暖まるような感じがします。

昭和30年代の山のくらしを再現した茅葺き屋根の作小屋に入って、いろいろな道具を探しながら囲炉裏の前に座り、ひと昔前のくらしに思いをめぐらせてみませんか。



神々が舞う！日向の原風景

県内各地に残る神楽の舞を年次をあわせて博物館が身近に紹介する神宮の森での大イベントです。昨年度は椎葉村尾前神楽の実演でしたが、本年度は、西都市の銀鏡神楽を上演します。博物館内での神々しいまでの迫力を是非一度御覧下さい。

期 日 平成12年12月23日（土）

場 所 宮崎県総合博物館特別展示室

上 演 10:00~12:15
13:15~15:45



北国の津軽三味線ライブ！

11月5日(日)

常設展示場2階の民俗展示室作小屋前

午前 10:50~12:00

午後 13:30~15:30

「みやざき文化フェスティバル事業」の一環で実施する宮崎県総合博物館のイベント。宮崎市在住の村上三絃道氏の高い奏法による津軽三味線の演奏会。民俗展示室という雰囲気の整ったコーナーで津軽の哀愁民謡の歌もまじえながら北国と南国宮崎県椎葉村から蔵座輝美氏をむかえて宮崎県の民謡を紹介します。北国と南国の文化の比較もできます。



博物館からのお知らせ

博物館にメールが開設されました。

①自然史に関する事、②歴史に関する事、③その他施設や運営に関する事の3つに分けて開設しました。

①自然史に関する事（植物、動物、地質に関する事）

museumna@miyazaki-nw.or.jp

②歴史に関する事（考古、歴史、民俗に関する事）

museumhi@miyazaki-nw.or.jp

③施設や運営に関する事（県民文化ホール等）

museumso@miyazaki-nw.or.jp

どうぞご利用ください

友の会の会員募集

今からでも遅くありません。どんどん入会してください。お待ちしています。

10月からは年会費が半額になります。

小学生：500円 高校生以上：1000円

家族会員：1250円（何名でも結構です。）

賛助会員（企業・団体）：5000円

※詳しくは博物館までお電話ください。